



込山 俊博

日本電気株式会社

ソフトウェア生産革新部

統括マネージャー

ソフトウェア製品の品質要求及び評価

ーISO/IEC 25000:SQuaREシリーズとそのプロセス評価改善への活用ー

プロフィール

1985年、慶應義塾大学・理工学部卒業。同年、日本電気株式会社に入社。以来、ソフトウェア製品評価技術、ソフトウェアプロセス評価技術、システム開発方法論などの研究開発に従事。SEI-Certified SCAMPI Lead Appraiser / CMMI Instructor、iNTACS-Certified ISO/IEC15504 (AutomotiveSPICE) Competent Assessorなどの資格を有し、2000年から社内外のシステム開発組織の業務プロセス改善コンサルティングに従事。現在は、主にソフトウェアエンジニアリング技術の社内展開を行っている。対外的には、ISO/IEC JTC1 SC7/WG6国際セクレタリ、経済産業省メトリクス高度化プロジェクト委員、IPA/SECプロセス改善WGリーダーなどを務め、ソフトウェアエンジニアリング分野の国際標準化やJIS化、業界への技術普及などに貢献している。1997年度標準化貢献賞（情報処理学会・情報規格調査会）、2007年度国際標準化貢献者表彰（経済産業省産業環境局長表彰）受賞。共著書/共訳書：「ソフトウェア品質評価ガイドブック」日本規格協会、「パーソナルソフトウェアプロセス技法」共立出版、「情報サービス産業白書2010」日経BPなど。発表論文多数。IEEE、ACM、情報処理学会、電子情報通信学会、PM学会各会員。

講演概要

受発注者間での品質要求の合意、作業成果物の品質評価結果に基づく工程移行や製品リリースの判断、及び候補となるソフトウェア製品の選定などを行う場合、品質の捉え方や評価の仕方に一貫性がないと混乱をもたらします。このような問題意識に基づき、ISO/IEC JTC1 SC7/WG6では、ソフトウェア品質の構造モデル、メトリクス、要求定義と評価のプロセスなどの国際標準化に取り組んでいます。本講演では、同WGで制定を進めているソフトウェア品質評価の国際規格ISO/IEC25000(SQuaRE)シリーズの概要を解説します。SQuaREの特徴は、多角的かつ定量的なソフトウェア品質の評価にあり、品質モデルを構成する品質特性、並びにそれらの代表的なメトリクスを紹介します。また、SQuaREとプロセスアセスメントモデルとの関係、並びにそのプロセス評価改善への活用について説明します。